

教科	保健体育	科目	体育			単位数	3
学科	工業科	履修学年	1	コース		必修・選択	必修
教科書	「現代高等保健体育改訂版」 大修館						
副教材等							

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①自己実現に向けて主体的に行動し、目標達成のために継続的に粘り強く取り組む能力と態度を育成する。 ②社会の一員として自己の責任を自覚し、他者と協働しながらより良い社会の実現を目指す態度を育成する。 ③人権、差別問題等を正しく理解し、適切な行動をとることができる能力と態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①進路目標に応じた情報収集や分析等により、生徒に現状と課題を認識させ、進路実現への意欲を高め、自主的な学習活動を促す。 ②ICTの活用による学習効果を高める工夫や積極的な授業改善により、生徒が「より深く分かる」授業を展開する。 ③探究活動を通じて、広い視野で物事を捉え思考する能力、課題解決に主体的に取り組む姿勢を育成する。また、発表等の機会を活用し、企画力やプレゼンテーション能力等の育成を図る。 ④人権に関する課題や多様性について理解を深め、課題を自らの事として捉え、人権を尊重する行動がとれる資質を身に付ける。 ⑤生徒の人格を尊重した丁寧な指導や、内面に寄り添った支援等により、自律的な行動への変容を促し、自己指導力を向上させる。
学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を育てる。
指導の重点	・自ら学び、自ら考える力を育てる。 ・安全、協力、公正、責任の態度を育てる。 ・基礎体力の向上、体調の管理、仲間との関わりについて深く考えさせ、育てる。

	学期 (時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1 学期 (30)	オリエンテーション 集団行動(1) 体づくり運動(7)～(8) 体育理論(2) 陸上競技(走跳投) (2)～(7) 長距離走(8)～(12) 選択柔道(10)	今年度の年間計画を説明する。 授業に臨むにあたっての心構え。 集合・解散・整列・列の増減・点呼。 (1)健康に生活するための体力の 向上を図る運動の計画と実践 (2)運動を行うための体力の向上 を図る運動の計画と実践 (3)体力テスト 握力・反復横跳び・上体起こし 長座体前屈・シャトルラン ハンドボール投げ・立ち幅跳び 5 0 m 走 (1)スポーツの始まりと変遷 (2)文化としてのスポーツ 速く走る、滑らかに跳ぶ、投げるた めの技術とその練習法を身につけ る。 正しい走り方を学び、段階かつ継 続的に練習、計測等をすすめて目 標記録を目指す。 武道論・道着の着方・礼法(座礼、 立礼)常に基本動作(礼法・受け身・ 組み方など)を基盤にし、各技の学 習では、漸進法を取り入れ、正しい 技術を習得できるようにする。	「学びに向かう 力・人間性等」の観 点をふまえ、総合 的に評価 定期テスト 「学びに向かう 力・人間性等」を含 め、総合的に評価 「学びに向かう 力・人間性等」を含 め、実技試験等によ る評価
学 習 計 画	2 学期 (36)	体づくり運動(2)～(3) 体育理論(2) 選択球技(20)～(31) 選択柔道(12)	(1)健康に生活するための体力の 向上を図る運動の計画と実践 (2)運動を行うための体力の向上 を図る運動の計画と実践 (3)オリンピックとパラリンピッ クの意義 (4)スポーツが経済に及ぼす効果 2 人組を中心としたスモールサイ ドゲームで、ゲームをすることや 勝敗を競うことを楽しむ。そのた めの集団技能を学び、個人技能の 向上を目指す。 個人的な技能を身につけることを 主とする。打撃面・守備面それぞれ 必要な技能を精選して、投げる・走 る・捕るなどの基礎技能を身につ け、バット・ボール・グローブの使 い方に慣れる。 一人一人が個々の技能を正しく身 につけてプレーできるようにす る。技能の発達段階に応じたゲー ムを導入する。 各技の学習では、漸進法を取り入 れ、正しい技術を習得できるよう にする。	「学びに向かう 力・人間性等」の観 点をふまえ、総合 的に評価 定期テスト 「学びに向かう 力・人間性等」を含 め、実技試験等によ る評価 「学びに向かう 力・人間性等」を含 め、実技試験等によ る評価 「学びに向かう 力・人間性等」を含 め、実技試験等によ る評価

	3 学期 (30)	体づくり運動(2)～(3) 体育理論(2) バスケットボール(16)～(25) 選択柔道(10)	(1)健康に生活するための体力の向上を図る運動の計画と実践 (2)運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践 (5)スポーツの高潔さとドーピング (6)スポーツと環境 個々の技能を正しく身につけてプレーできるようにする。 パス・ドリブル・シュートなどの基本的な動作を身につける。 個人的な努力はもとより、チームとしての協力心を養う。 技能の発達段階に応じたゲームを導入する。 各技の学習では、漸進法を取り入れ、正しい技術を習得できるようにする。	「学びに向かう力・人間性等」の観点をふまえ、総合的に評価 定期テスト 「学びに向かう力・人間性等」を含め、実技試験等による評価 「学びに向かう力・人間性等」を含め、実技試験等による評価
計 9 6 時間（5 5 分授業）				
評価の観点 の趣旨と評価方法	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に表現している。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。
	[評価方法] 以上の観点を踏まえ、実技テストの成績、授業中の態度・発表、振り返りシートなどから総合的に判断し、達成率が 80%以上を A、79～50%を B、50%未満を C と評価する。			